

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	2014年に当院で経験したデング熱症例のケースシリーズ研究とデング熱国内発生に関する考察
研究責任者	呼吸器内科 出雲 雄大
研究機関名	日本赤十字社医療センター呼吸器内科, 感染症科
研究目的と意義	<p>2014年に国内発生のデング熱が70年ぶりに流行しました。当時、当院にも発熱、発疹のみられる患者さんが多く受診され、各種検査の結果デング熱と診断されました。しかし、2014年以降は国内発生のデング熱は報告されていません。</p> <p>2020年の東京オリンピックを控え、日本を訪問する外国人は増加すると考えられますが、デング熱を始め、蚊が媒介する輸入感染症の予防のための対策が求められます。</p> <p>当院で経験したデング熱症例のデータや、東京都のサーベイランス、気象庁による気候の記録等の解析により、国内感染が増加した要因や予防策について考察する研究を計画しました。</p>
研究方法	<p>●対象となる患者さん：</p> <p>2014年8月21日から2014年9月29日の期間中、発熱や皮疹等の症状により当院を受診し、デング熱と診断された患者さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・除外基準</li> </ul> <p>電子カルテの情報不十分により、解析困難であった患者さん 患者さん、またはご家族が当研究への参加を拒否された場合</p> <p>●研究方法</p> <p>診療録から必要な情報を集め、データベースを構築します。</p> <p>この方法は後ろ向き観察研究という方法で、新たに患者さんへ負担はかかりません。匿名化といって個人名を消去し、代わりに番号などを付与して処理を行うことで、誰のデータか分からないようにして、統計解析を行います。その結果は、内科学や感染症学に関する学会や医学雑誌に公表されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は、担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は致しません。研究に同意されない場合であっても、患者さんに不利益を及ぼすことはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター呼吸器内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 担当者：栗野 暢康 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>